

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	ぐんまけんりつちゅうおうちゅうとう きょういくがっこう						②所在 都道府県	群馬県
26～30	①学校名	群馬県立中央中等教育学校							
③対象学科 名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模	
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	前期課程 1, 2, 3 学年 379 名 (男 189 名 女 190 名)	後期課程 4, 5, 6 学年 369 名 (男 181 名 女 188 名) 計 748 名
普通科	126	127	126	128	121	120	748 名		
⑥研究開発 構想名	「地球市民としての日本人」の育成を土台としたグローバル・リーダー育成								
⑦研究開発 の概要	<p>①世界の多文化の現状と英語を使ったコミュニケーションについて学ぶとともに、政治、経済、ビジネスのグローバルな社会課題を大学、企業、国際機関との連携により、講義、ゼミ形式で学ぶ「World Citizen 科」の開発。</p> <p>②グローバルな社会課題を自らの問題意識から発見探究する個人研究を行い、発表やレポート・論文作成を行う「総合的な学習の時間」の開発。</p> <p>③海外フィールドワークやグローバルウィーク、イングリッシュキャンプ等の学校行事の効果的な実施方法についての開発。</p> <p>④希望者対象課外活動として、各種コンテスト（全日本高校模擬国連等）、コンクール参加に向けて、その学習指導の場となるSGゼミ（スーパーグローバルゼミ）を総称した「明石プロジェクト※」の開発 ※明石プロジェクトは、本校の創立に深く関わった元国連事務次長の明石康氏にちなんだプロジェクトである。</p>								
⑧研究開発 の内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>現代の日本人に必要なグローバルな視野と多文化感覚、郷土意識を体験的に身につけ、国際的なコミュニケーションの手段として高度な英語運用能力を土台とし、グローバルな課題を旺盛な問題意識により発見解決し、それを粘り強いチャレンジ精神と創造的、探究的思考力で積極的に解決できるグローバル・リーダーを育成することを目的とする。</p> <p>そのためにグローバルな関係である世界と日本が抱える現代的課題を、自らの問題意識を持って積極的に発見し、探究と他者との意見交換や討議によって創造的に解決を見いだそうとする態度と能力を身につける。</p> <p>最終学年においては、課題研究によって見出した自らの考えや思いを伝え、相手の意見を理解するための英語による高度なディスカッションや交渉などを実践する。国際的なコミュニケーションを実践し、周囲が外国人であっても、粘り強く現状を好転させようとする能力を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は SELHi(スーパーイングリッシュランゲージハイスクール)に、1 回目を本校前身の群馬県立中央高等学校時代の平成 14 年に、2 回目を本校創立後平成 19 年の計 2 回指定され、創立時から「学校の英語化」を推進し、英語コミュニケーション能力を向上させる取り組みを行い、着実に成果を上げてきた。さらに、総合的な学習の時間では、現代国際社会、未来の世界に生きる自分を考えることをテーマに個人研究や論文作成を行ってきた。こうした成果として、生徒たちの英語運用能力は全国的にも高く、地域においても英語教育先進校として認知されている。しかし残念ながら、将来この英語運用能力を生かした職業に就き、グローバル化した世界の中で自分をどのように活かして、世界に、そして日本に貢献していくべきかという展望をいだくに至らないまま卒業していく生徒が多いのが現状である。現在本校に必要なものは、現代グローバル社会が抱える諸問題を学び取り、どのように解決していくかを探究することで、自分がそこに将来関わっていこうとす</p>							

	<p>る展望をいだかせるところまで、本校のカリキュラムを進展させることである。</p> <p>研究開発は、本校の先進的な英語教育と、現代社会をテーマにした探究型個人研究の2者による現在までの地球市民育成をその基盤として、World Citizen 科におけるグローバル・リーダーを育成する研究を加えることで三位一体となった人材育成の方策を開発できると思われる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>全国のスーパーグローバルハイスクールや全国高等学校を対象に、研究協議会を年1回開催し授業公開と研究協議を行うとともに、研究開発成果を年次成果報告書にまとめて発行する。</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>課題研究テーマは、国際事情（日本が世界に貢献する国際協力について）、世界の宗教（現代のイスラム教徒の生活について）、国連活動（国連による平和維持活動と今後の国連活動の可能性について）、国際経済（中国、東南アジアと日本の経済上の結びつきについて）、グローバルビジネス（日本企業が世界で活動を行う際の諸課題について）、ESD（未来志向で持続可能な社会を作るための課題について）、環境問題（水と空気を切り口とした世界規模の環境問題について）、比較文化（世界の文化比較について）の8分野を設定する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>World Citizen 科と総合的な学習の時間を中心に課題研究を実施する。</p> <p>World Citizen 科は、第1～3学年各35時間のMulti Cultures I・II、Global Studies Iと第4～6学年各1単位のGlobal Studies II・III、Contemporary Studiesで構成し、研究グループをつくり課題研究を行う。総合的な学習の時間は、第1～3学年各70時間、第4・5学年各1単位(35時間)で構成し、第2～5学年において個人研究を行う。</p> <p>World Citizen 科と総合的な学習の時間では、グループ研究と個人研究の2つの研究形態をとりながら、研究テーマが相互に関連しながら課題研究を深めていく。検証評価は、科目ごとの発表、作成する論文、レポートや学校行事Global Weekでの発表等で行う。</p> <p>テーマにもとづいた生徒の研究グループが外部講師の指導に従って研究を行う。また、海外研修を実施して、テーマに基づくフィールドワークを行い、課題研究を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>第5学年において、World Citizen 科 Global Studies IIIで情報1単位を代替する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価。</p> <p>希望者対象の課外活動「明石プロジェクト」として、SGゼミ（スーパーグローバルゼミ）を設置して、各種コンテストやコンクールに向けた集中した準備学習を行う。全日本高校模擬国連に出場し上位入賞を目指す。</p> <p>検証評価は、スーパーグローバルハイスクールとしての取組を参加コンテストやコンクールで上位入賞などの成果で検証していく。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>交流館やマルチメディアライブラリー等を、人と情報との「交流の拠点」として整備し、国内外問わず外国人や講師とリアルタイムでの意見交換等を可能にするための機会と場所を日常的に設置する。また、帰国生徒と外国人留学生受入数を増加させる。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>なし</p>

ふりがな	ぐんまけんりつちゅうおうちゅうとうきょういっかつこう	指定期間	26～30
学校名	群馬県立中央中等教育学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	120人 (30年度)
	SGH対象生徒以外:	40人	45人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 課題研究を通して、研究にとどまらず行動を起そうとする生徒を支援する。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	90人 (28年度)
	SGH対象生徒以外:	40人	43人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 語学研修や海外研修に積極的に参加させる。本校実施の海外語学研修、実施予定の短期留学を含む。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80% (29年度)
	SGH対象生徒以外:	40%	40%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGH全体の取組により、漠然とした憧れでなく、可能性の高い将来展望を抱けるようにSGHで取り組む。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人 (29年度)
	SGH対象生徒以外:	23人	25人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 全日本高校模擬国連、英語スピーチ、英語ディベート大会への参加を増やし、さらに入賞数を増やす。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	60% (30年度)
	SGH対象生徒以外:	38%	42%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 卒業時にGTEC680点(CEFRのB1レベル)を目標に、総合的に英語力を育成する。									
(その他本構想における取組の達成目標)GTEC Advanced 6学年の610点以上の生徒の割合									
f	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100% (29年度)
	SGH対象生徒以外:	80%	82%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 最終学年におけるGTECスコアの向上を1つの目標として、学校全体で英語力強化に努めていく。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	20% (33年度)
	SGH対象生徒以外:	7.33%	4.83%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 上記大学へ生徒自ら進路を選択するようにSGHの取り組みを行うことで、進学率を高めたい。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	12人 (33年度)
	SGH対象生徒以外:	1人	1人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 英語を用いてさらに研究を深めるために、海外大学への進学を推奨していく。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70% (33年度)
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 各自の課題研究が自分の将来展望へとつながるようSGHの取組を実践する。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人 (33年度)
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大学在学中に留学又は海外研修に行くことが必要であると考えられるような、SGHの取組を実践する。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	164人	168人	人	人	人	人	人	220人 (29年度)
	目標設定の考え方: 明石塾、地球市民研修、短期留学、海外フィールドワークを実施し、個人的海外研修も推奨する。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	240人	240人	人	人	人	人	人	300人 (29年度)
	目標設定の考え方: 連携している大学、企業、国際機関を中心に、課題研究に関する機会内容を充実する。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	0校	校	校	校	校	校	3校 (28年度)
	目標設定の考え方: 充実した課題研究になるよう連携海外大学、高校を一定数充実する。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	25人	25人	人	人	人	人	人	100人 (28年度)
	目標設定の考え方: 授業で直接、講義及び研究課題の指導をする外部講師を一定数充実する。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	0人	人	人	人	人	人	30人 (28年度)
	目標設定の考え方: 授業で直接、講義及び研究課題の指導をする外部講師を一定数充実する。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	0人	0人	人	人	人	人	人	20人 (28年度)
	目標設定の考え方: 大学や企業主催の様々なコンテストを紹介し、積極的に参加を促し、生徒主体で取り組む。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	1人	1人	人	人	人	人	人	6人 (30年度)
	目標設定の考え方: 留学を積極的に紹介したり、受け入れ校として積極的に他国からの留学生の受け入れていく。							
h	先進校としての研究発表回数							
	0回	0回	回	回	回	回	回	4回 (27年度)
	目標設定の考え方: 実践報告会や研修成果報告会、その他英語教育関連やSGH関連の行事で積極的に発表を行う。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	△	△						○
	目標設定の考え方: ホームページを英語化することで、国内外に本校の取り組みを伝えていく。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	754	757	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							